

天然ガスの活用について

天然ガスの活用で、域内循環バスを実現。

【前提条件】

1. 白子町から低価格でガスを販売してもらおう
 2. 白子町と提携し、現在ガスタンクにある「ガス高圧充填装置」を貸してもらおう
- 首長の交渉能力が求められる。

【準備】

自動車メーカーに対して、実験事業として天然ガスを利用したガスタービンエンジンまたはレシプロエンジンを搭載したマイクロ（小型）バスの共同開発と実証実験を売り込む。

理由：今後、石油資源の高値安定や枯渇（数十年）が予測されているが、九十九里地域は天然ガスの宝庫であり、埋蔵量は白子町が一年間に使う量で計算すると数百年分あるとのこと。さらに今後は日本領海内に埋蔵され、その量は無尽蔵とも言われるメタンハイドレート（固体メタンガス）の活用が有望視されているため、ガスエンジンの開発は自動車メーカーにとって大きなメリットとなる。

ガスタービンエンジンに関しては日立製作所も製品を持つため、産官連携ということからも有望と考えられる。また、実験事業としてメーカーと提携することで、無償もしくは非常に低価格な購入代金でバスを譲り受けられると予想される。

【運営】

外郭団体としてNPO法人を立ち上げる。運行計画、収益管理などはNPO法人でおこなう。

運転手は役場職員を活用する。各課から一人または二人の希望者を募り、二種免許を取得してもらい、運行に当たる。

運行に関わる職員には、特別手当を支給する。事故の際の保険はNPO法人と役場の折半による。

このバスを八積メディカルステーションと村内主要施設（役場・学校・文化会館・尼が台公園・村内商業施設など）を結ぶルートで循環させる。また、将来的には茂原駅と一宮駅などを結ぶ。

季節によっては臨時便として海岸までの順路を加えることで観光客誘致の一助とする。

バスは走る広告塔として活用することでスポンサー料を徴収し、運営資金に充当する。

【料金】

「なんでも無料」は人間を堕落させる。受益者負担の原則からも、一律10

0円が良いのでは？（要損益計算）

【参考】

白子町ではガスエンジンを搭載した軽自動車を持っており、満タンで120 Km 走る。満タンあたりのコストは原価で30～50円程度とのこと。

将来的に公用車をすべてガス車にすれば、プランニングから開発そして運用をおこなった「地球に優しい自治体」として長生村の名が売れる。

また、村長公約でもある「村内循環バスの実現」のため村の出費を最小限にするために有用であり、村でおこなっている無料外出支援の負担軽減のためにも役立つプランだと思うが、執行部の見解を伺います。